

世界的に普及しつつある

混 凝 土 の 合 理 的 施 工 法

△
 混泥土工事に對する新理論の普及は今や世界の工事技術界に猛然たる一大潮流となつて流れ始めた。

最近の混泥土理論としてファイネスモデュラス Fineness Modulus コンシステンシー Consistency に關するものは混泥土に更新の大生命を與へるものである。(工事畫報十月、十一月鐵筋混泥土工事基本智識號参照)

従來の施工法では混泥土の強度が實に不安定なものであつた、それで必要以上の安全率を見込まねばならなかつた、それが最近世界の各學者の實驗的理論から確實に強度を一定する事が出来る様になつた、それは實にファイネスモデュラスコンシステンシーを調べる事に依つて確實となつたのであるが、其の中で最も簡単な方法として何處の混泥土工事にも應用出来るのがスラムプテスト (Slump Test) である。

△
 スラムプテストは混泥土の練加減(主として水加減)を調べて強度の不定を避ける唯一の簡易試験である。

△
 十月十二日東京帝大工學部で佐野、永山兩教授主催となり全國の各混泥土工學關係の大家が混泥土強度試験方法の統一協議の決議案が得られた事は日本の工事界の爲めに最も大なる刺戟である。

△
 混泥土工事の仕様書に強度を指定する事は近い内に全國的な問題となる筈である。

△
 民間會社でも先覺的識者は混泥土の種々な試験を實行して實地工事を確實なものとして

をる、信越電力會社の如きは之が爲めに特に東京高等工業學校へ試験費を提供して徹底的にやつてをる。

△
 請負業者でも請負つた工事を經濟的に仕上げる爲めには此の合理的な Slump test 方法に依る事が最も賢明な工法であるとして今や實行の機運に向て來た。

△
 大河戸博士曰く、従來の混泥土工法では 1,000 封度の強度を要する所に 1,500 封度のものが出來たり、又は 700 封度のものが出來てをつた、之が即ち Slump Test の實行必要なる最大原因である。

之が爲めに大河戸博士も現場ではスラムプテストの實行が先づ第一着に必要な事であるを極言されてをる。

△
 尚ほ大河戸博士はコンクリートの配合には砂と砂利の粒度率を試験して適當に使用すれば切込砂利で充分間に合ふ、わざわざ手数を掛けて砂と砂利を區別するに及ばないを言明されてをります、之は即ち Fineness Modulus の試験實行である。

△
 鐵道省工事課長の橋本敬三氏も今後の混泥土工事に Fineness Modulus と Consistency の理論的實行を強調された。

△
 八田鐵道次官は工事畫報十月號特輯の鐵筋混泥土工事基本智識號の編輯に對し多大の示教と助言を與へられたのである。それにも對しても我社工事研究會は混泥土工事改良の爲めに最も合理的な施工法の普及に努めねばならぬ。